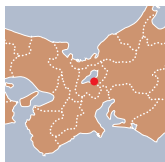


彦根城の時報鐘と虫の音

滋賀県彦根市



彦根城天守近くの着見台から西を望む。石垣の周りには樹木がうっそうと茂っている。そのなかから聞こえる虫の音が心地よい。右奥の琵琶湖の湖面にかすかに浮かんで見えるのは多景島。



表門橋。橋を渡ると表門がある。ここからは天守は視界に入らず、ただ森が広がっているように見える。



3層3階の白垂の姿が美しい彦根城の天守(国宝)。彦根藩は幕末期は35万石に及んだが、着工時は18万石だったので、天守もその規模でつくられており、他の城に比べてやや小ぶり。

古来、東西を行き来する際の交通の要衝だった彦根。なかでも、彦根市北部にある佐和山には、古くから軍事的拠点として城が築かれてきた。戦国時代、佐和山をめぐる浅井氏と六角氏が争奪戦を繰り返したあと、1595(文禄4)年、石田三成が城主となり、堅牢な石垣をもつ本格的な城・佐和山城を築いた。しかし城は、そのわずか5年後、関ヶ原の戦いで、徳川家康率いる東軍により陥落。この戦功により、井伊直政が家康から佐和山を与えられた。

1601(慶長6)年に入城した直政は、城を佐和山から移すことを構想してい



長浜城大手門を移築したものとされている天秤櫓(重文)。廊下橋は非常時は落とし橋になる。

たが、戦傷が原因で翌年に死去。嫡子直継(のち直勝)が後を継ぎ、1603年、琵琶湖畔の金亀山(彦根山)で築城を開始した。これが彦根城である。

山をそのまま城に築き上げたためか、一帯は緑が深い。内堀を渡って表門をくぐると、昼でも暗く感じるほど木々が空を覆っている。表門から石段を登りきった所、天秤櫓の前にある鐘の丸からは、アラカシやムクノキなどが石垣の周囲を埋めているの見える。

工事は、彦根を大坂以西の勢力を封じる要と考えていた家康の命のもと、伊賀、伊勢など7か国12大名の協力によって進められた。そのため、彦根城は、豊臣秀吉の長浜城から移された天秤櫓をはじめ、京極高次の大津城からの天守、浅井長政の小谷城からの西の丸三重櫓など、他城から移築したもの



外からの視線を拒むように森の中に建つ彦根城の天守。中央の白壁は二の丸佐和口多聞櫓(さわぐちたもんやぐら・重文)。右下から白壁へ向かう道には外堀(旧中堀)に沿って松が並ぶ。当初は47本あったので「いるは松」と呼ばれる。



時と同じ回数打たれる時報鐘。大晦日には除夜の鐘を撞くこともできる(要予約)

が多い。三成の佐和山城からは、石垣などを流用した。

天秤櫓を抜けると鐘撞堂が見える。そこで撞かれるのが時報鐘だ。時報鐘はもともと鐘の丸にあったが、城内、城下によく聞こえるように、現在の太鼓門櫓前に移されたという。

鐘が打たれると、やや低い、澄んだ音が響きわたる。その余韻は城下にも広く流れる。12代藩主・直亮の時代、より美しい音色にするため、小判を大量に入れて造り直されたその鐘は、いまも午前6時から3時間おきに、1日5回打ち鳴らされ、当時と同じ音で街に時を知らせている。

太鼓門櫓を通ると、天守のある本丸に着く。西に湖面、東にはかつて城があった佐和山を望むことができ、眼下には森と市街が広がる。

天守は着工から3年後に完成したが、工事がすべて終わったのは約20年後の1622(元和8)年、2代藩主・直孝のとき。周囲の樹木は、その直孝が、外敵から城内を隠すように植えたものが多



琵琶湖の水をそのまま引いている内堀。左にあるのは、以前は藩の表御殿だった彦根城博物館。



城の北東にある、中国・唐時代の玄宗皇帝の離宮になぞらえて造られたといわれる玄宮園。池や周囲には、近江八景を模して、琵琶湖に浮かぶ竹生島(ちくぶしま)や沖島を表す石を配置している。船着き場や、藩主が客をもてやすための茶室・鳳凰台が残る。庭の敷地のうち約2万8700㎡が名勝に指定されている。

く、薬用や食用になる種類もある。

天守の脇からその木々の間をぬうように延びる石段を下ると、耳を澄まさなくても、うっそうとした緑のなかから、スズムシやマツムシ、コオロギなどの虫の音が聞こえてくる。その音は、黒門を出て玄宮園に入るといっそう強くなり、耳をくすぐる。多いときは6~7種類の虫の音色が聞こえるという。

玄宮園は、4代藩主・直興が1677(延宝5)年に造営した池泉回遊式庭園で、茶室や船着き場が当時のまま残っている。初夏のハナショウブ、秋の紅葉をはじめ、四季折々の草花が目に見え、池の西には、のちに大老となる13代藩主・直弼も生まれた、歴代藩主の下屋敷・楽々園(榎御殿)がある。この玄宮園で秋に開かれる「虫の音を聞く会」では、月明かりと灯に照らされる庭の景

色や野点とともに、虫の奏でる音を愉しめ、茶道や船遊びを嗜んだ大名文化の名残を味わえる。

文化的な生活。城の内外に時を告げる鐘の響きと、豊かな自然の中で鳴る虫の音は、大名の暮らしに彩りを添えるものだった。彦根城の音風景に触れることは、およそ2世紀半も続いた彦根藩の歴代藩主の、おだやかで風雅な生活を偲ぶことでもある。

よく聞こえる時期・場所  
鐘の音は1日5回、彦根城周辺で聞くことができる。スズムシ、マツムシなどの虫の音は9月から10月にかけて玄宮園で、7月下旬から8月下旬まではヒグラシの蝉しづれが彦根城内一帯で聞くことができる

問い合わせ先  
彦根市生活環境部生活環境課  
または産業部観光課 電話 0749 22 1411

参考文献：環境省大気保全局大気生活環境室発行『残したい日本の音風景100選』パンフレット